

北琉球奄美大島龍郷町浦方言の格標識

重 野 裕 美*

1. はじめに

格は名詞句に後続し、述語および他の名詞句との意味的・統語的な関係を示す標識の体系である。奄美方言の格標識を体系的に記述しているものは少ないが、奄美大島の北部を調査したものとして奄美市名瀬方言の寺師（1981）、龍郷町瀬留方言のまつもと（1998）がある。また、南部を調査したものとしては大和村大和浜方言の長田（1980-1981）、宇検村湯湾方言のNiinaga（2014）、瀬戸内町加計呂麻島芝方言の三石（1983）、瀬戸内町の21地点と隣接する地点を扱っている野原（1989）などがある。

同じ奄美方言内でも地域差があるため、本稿では Shigeno（2010）で報告した奄美大島浦方言の格助詞の記述にデータを追加するとともに、Niinaga（2014）、白田（2016a・b）の記述項目を参照しながら、浦方言の格の形式と機能を再提示することを目的としている。

2. 浦 方 言

浦方言は奄美大島龍郷町の浦集落で話されており、琉球語¹⁾の北グループに属することばで

ある。琉球語は鹿児島県の奄美諸島から沖縄県にわたって伝統的に話されている言語である。2016年8月末現在、浦集落の人口は581人²⁾である。上記のように伝統方言は若い世代に継承されていないことから、集落内の方言話者数はこれより少なく見積もられる。図1に浦集落の位置を示す³⁾。

なお、文例は1行目に方言形の音素表記、2行目はグロス（文法情報）、3行目に共通語訳（直訳）を示す。なお、本稿中のデータ表記については、浦方言は重野（2015）のアルファベット表記に従って示し、適宜接辞境界を加えている（接語境界は「=」、接辞境界は「-」で示す）。形態素境界を示さずに、同時に成り立つ二つ以上の意味機能を示すときは「.」を用いる。なお、本稿で示す文例は全て質問紙調査から得られたものである⁴⁾。質問票は国立国語研究所の文法調査票、Niinaga（2014）、白田（2016a・b）を参考にしている⁵⁾。

3. 浦方言の格標識

本稿で扱う格標識の一覧を以下に示す。以降、浦方言の格助詞の文例を示しながら、

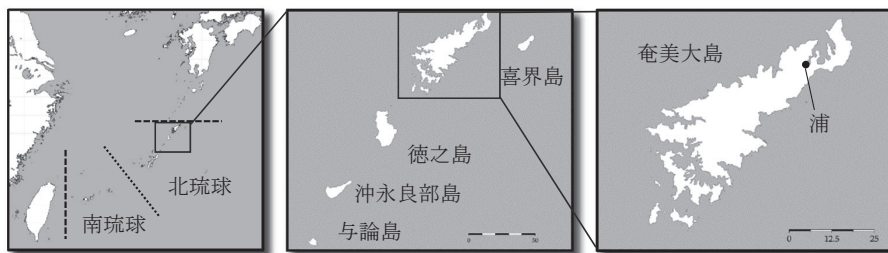


図1 浦集落の位置

* 広島経済大学経済学部准教授

表1 浦方言の格助詞

格助詞	形式
主格1	nominative1 =ga/ka
主格2	nominative2 =nu
属格1	genitive1 =nu/n
属格2	genitive2 =ka
対格	accusative =ba
与格	dative =nji
処格1	locative1 =nan
処格2	locative2 =nantī
処格3	locative3 =ji
処格4	locative4 =nanji
具格	instrumental =shi
方向格	allative =ch
奪格	ablative =ra/raga
限界格	limitative =garī
共格	comitative =tu
比較格	comperative =kuma/nkuma

その機能について詳述する。

3.1 主格

主格は =ga/ka, =nu で標示され、動作、変化、状態の主体を表す。重野・白田 (2016) では、主に動詞述語文において主格の =ga/ka と =nu がホストとなる名詞句の有生性に依じて表2のように分布することを示した。

まず、主格1の =ga/ka と主格2の =nu の

表2 浦方言の主格標示

浦方言の有生性階層	主格	
代名詞	人称	ga/ka
	疑問	
	指示	
呼称名詞	親族	nu (指示代名詞および「どれ」は ka)
	固有名	
ヒト名詞	親族	nu (指示代名詞および「どれ」は ka)
	その他ヒト	
その他	有生	nu (指示代名詞および「どれ」は ka)
	無生	

例文を示す。主格1は基本的に =ga で標示されるが、異形態として =ka もある。=ka の分布は名詞の種類と音韻的な条件で決まっており、代名詞のうち語末が rV のときに現われる。なお、主題助詞や添加助詞などが主語名詞句に後続する際は、主題助詞や添加助詞のみが現われ、主格助詞は現われないことがある (例文 (24) 参照)。

- (1) kyuu=ya takashi=**ga** shima=chi
 今日=TOP タカシ=NOM1 島=ALL
 kae-tī k-yut=too. [動作の主体]
 帰る-SEQ 来る-NPST=ASS
 「今日はタカシが島へ帰って来るよ。」
- (2) tak=**ka**⁶⁾ shima=chi kae-tī
 誰=NOM1 島=ALL 帰る-SEQ
 k-yun=yoo? [動作の主体]
 来る-NPST=WHQ
 「誰が島へ帰って来るの?」
- (3) ututu=**nu** shima=chi kae-tī
 弟=NOM2 島=ALL 帰る-SEQ
 k-yut=too. [動作の主体]
 来る-NPST=ASS
 「弟が島へ帰って来るよ。」
- (4) akira=**ga** kii=ra
 アキラ=NOM1 木=ABL
 utī-tat=too. [変化の主体]
 落ちる-PST=ASS
 「アキラが木から落ちたよ。」
- (5) tak=**ka** kii=ra
 誰=NOM1 木=ABL
 utī-tan=chi=yoo? [変化の主体]
 落ちる-PST=QUOT=WHQ
 「誰が木から落ちたって?」

- (6) ututu=**nu** kii=ra
 弟=NOM2 木=ABL
 ufi-tan=chi=yoo. [変化の主体]
 落ちる-PST=QUOT=ASS
 「弟が木から落ちたってよ。」

- (7) ama=nanŋi akira=**ga**
 あそこ=LOC2 アキラ=NOM1
 wut=too. [状態の主体]
 居る.NPST=ASS
 「あそこにアキラが居るよ。」

- (8) ama=nanŋi tak=**ka**
 あそこ=LOC2 誰=NOM1
 wun=yoo? [状態の主体]
 居る.NPST=WHQ
 「あそこに誰が居るの？」

- (9) ama=nanŋi ututu=**nu**
 あそこ=LOC2 弟=NOM2
 wut=too. [状態の主体]
 居る.NPST=ASS
 「あそこに弟が居るよ。」

ただし、名詞述語の主語の場合は有生性階層が低い名詞句にも主格1の=**ga**が後続する場合がある。

- (10) diin kasa=**ga** y'a-nnun=yoo?
 どの傘=NOM1 2.SG.のもの=WHQ
 「どの傘がお前のか？」

一方、形容詞述語の場合は有生性階層に沿う例もあるが(例文(11)), 沿わない例もある(例文(12))。

- (11) kyuu=ya yassë=**nu**
 今日は=TOP 野菜=NOM2

yassat=too.
 安い.ADJ=ASS
 「今日は野菜が安いよ。」

- (12) ututu=**ga** ichiban gina-sa.
 弟=NOM1 一番 小さい-ADJ
 「弟が一番小さい。」

3.2 属格

属格は所有, 部分, 関係, 同格などを表し, =nu/n, =kaの2形式がある。属格も主格と同様, 名詞句の有生性の階層の位置により形式が決まる(詳細は重野・白田(2016)参照)。属格1の=nuは親族呼称・単数, 固有名詞・単数, 親族名詞・ヒト名詞, 無生物などに現われる。以下, 文例を示す。

- (13) un k'uruma=ya ani=**nu**
 この車=TOP 兄=GEN1
 k'uruma=doo. [所有]
 車=ASS
 「この車は兄の車だ。」

- (14) y'aa kun y'u=**nu** namae
 2.SG.TOP この魚=GEN1 名前
 shic-chun=nyaa? [所有]
 知る-PROG.NPST=YNQ
 「お前はこの魚の名前を知っているか？」

- (15) michi=**nu** mannaka
 道=GEN1 真ん中
 acchan=chi=ya ikan=doo. [部分]
 歩く.PST=QUOT=TOP NEG.NPST=ASS
 「道の真ん中を歩いてはいけないよ。」

- (16) kun k'waa ani=**nu** k'waa
 この子.TOP 兄=GEN1 子

dar-yot=too. [関係]

COP-POL=ASS

「この子は兄の子ですよ。」

(17) kun k'wa=ya sëkkunin=**nu**

この子=TOP 大工=GEN1

ututu=doo. [関係]

弟=ASS

「この子は大工の弟だよ。」

(18) kuryaa ani=**nu** akira

これ.TOP 兄=GEN1 アキラ

dar-yot=too. [同格]

COP-POL=ASS

「これは兄のアキラですよ。」

形式名詞が後続する場合は属格1の =nu ではなく =n が現われる。

(19) haku=**n** naka=nanji manjuu=nu

箱=GEN1 中=LOC4 まんじゅう=NOM2

ikutsi a-n=chi

いくつ ある-NPST=QUOT

omo-yuri=yoo? [部分]

思う-NPST=WHQ

「箱の中にまんじゅうがいくつあると思うか？」

属格2は =ka で現われる。=ka はヒト疑問代名詞・ヒト指示代名詞・単数、モノ指示代名詞に現われる。以下、ヒト疑問代名詞のうち、所有と関係の例を示す。

(20) tak=**ka** tü? [所有]

誰=GEN2 手

「誰の手？」

(21) kun k'wa=ya tak=**ka**

この子=TOP 誰=GEN2

k'wa=kai? [関係]

子=Q

「この子は誰の子か？」

また、名詞修飾には、属格を標示せず被修飾部に修飾部を前置するだけで修飾関係が成り立つ場合がある。具体的には人称代名詞・単数、人称代名詞・複数、ヒト疑問代名詞・ヒト指示代名詞複数、親族呼称・固有名複数に後続する場合である。ただし、有生性が高い名詞句に後続する場合は属格が標示される（詳細は重野・白田（2016）参照）。

(22) wan tü.

私 手

「私の手。」

(23) ututu=**nu** tü.

弟=GEN1 手

「弟の手。」

3.3 対格

対格は他動詞の目的語を表す⁷⁾。形式として =ba があるが、無標の場合もある。どのような条件下で無標となるかは現時点では不明な点が多い。奄美大島内の他方言の先行研究では、有生性の高い目的語には無標ではなく =ba が用いられることが指摘されている (Niinaga 2014)。また、有生性が低くても =ba が後続するので、有生性のみが対格の分布に影響しているわけではないこともこれまでの報告から判明している (Niinaga 2014)。

一方、浦方言では、命令文、意志文など、主語の人称が決まっている文タイプの場合、有生性の高い目的語であっても対格が無標となるため、有生性の高い目的語には対格が必ず標示さ

れるという先行研究の指摘の反例となる（例文(27)参照）。

(24) A : takashi=ya tomoko(=**ba**)
 タカシ=TOP トモコ(=ACC)
 uc-chan wake?
 打つ-PST わけ
 「タカシはトモコを打ったの？」

B : ai, hiroshi=**ba**=du
 いや ヒロシ=ACC=FOC
 uc-chat=too.
 打つ-PST=ACC
 「いや、ヒロシを打ったよ。」

(25) kun tsukue(=**ba**) wattari=shi
 この 机(=ACC) 1.DU=INST
 hakub-oo.
 運ぶ-INT
 「この机を私たち二人で運ぼう。」

(26) un michi kuzirī-tun=kana
 その 道 崩れる-PROG.NPST=CSL
 abuna-san=kana kun michi(=**ba**)
 危ない-ADJ.NPST=CSL この 道(=ACC)
 too-ti ik-i!
 通る-SEQ 行く-IMP
 「その道は崩れているから危ないからこの道を通して行け！」

(27) koma-tan tuki wan(=**ba**)
 困る-PST とき 1.SG(=ACC)
 abī-rī=yoo.
 呼ぶ-IMP=SFP
 「困ったときは私を呼べよ。」

3.4 与格

与格は動作の受け手（(28) (29) の文例）・

対象（(30) の文例）、受動文の動作主（(31) の文例）、使役文の被使役者（(32) の文例）などを表し、=**nji** で標示される。以下、文例を示す。

(28) kun k'washi=ya y'a=**nji** yaras-oo.
 この 菓子=TOP 2.SG=DAT やる-INT
 「このお菓子はお前にやろう。」

(29) kazuko-nun=tu onashi geta
 カズコのもの=COM 同じ 下駄
 hanako=**nji**=daka koo-ti
 ハナコ=DAT=ADD 買う-SEQ
 k'urīn=doo.
 BEN.NPST=ASS
 「カズコのと同じ下駄をハナコにも買ってやるよ。」

(30) waa kam-icha-ka-tan=**ba**
 1.SG.TOP 食べる-DES-ADJ-PST=ACC
 c'hu=**nji** yenryo shi
 人=DAT 遠慮 する.SEQ
 kam-ikir-an-tat=too.
 食べる-POT2-NEG-PST=ASS
 「私は食べたかったけれども人に遠慮して食べられなかったよ。」

(31) takashi=ya senshe=**nji**
 タカシ=TOP 先生=DAT
 ut-at-tan=chi=doo.
 打つ-PASS-PST=QUOTE=ASS
 「タカシは先生に打たれたってよ。」

(32) un nimotsu ubu-san=kana
 その 荷物 重い-ADJ.NPST=CSL
 wan k'wa=**nji** mut-as-i=yoo.
 1.SG 子=DAT 持つ-CAUS-IMP=SFP
 「その荷物は重いから私の子どもに持たせろよ。」

3.5 処格

処格は場所を表し、=nan, =nantĩ, =ji, =nanji の4形式がある。また無標で現れる場合もある。現時点では少なくとも「存在の場所」と「出来事（動作・変化）の場所」で使いわけがないことは判明しているが、各形式の詳細な使い分けについては不明である⁸⁾。また、同じ奄美大島の宇検村湯湾方言とは違い（Niinaga 2014）、浦方言の =ji は移動の意味を含意しない⁹⁾。まず処格1の =nan の文例を示す。

- (33) assya wan=ya yaa=**nan** zutto
 明日 私=TOP 家=LOC1 ずっと
 wut=too. [存在の場所]
 居る.NPST=ASS
 「明日私は家にずっと居るよ。」

- (34) k'inu=nu yuru=ya yaa=**nan**
 昨日=NOM2 夜=TOP 家=LOC1
 gohan ka-dat=too. [動作の場所]
 ご飯 食べる.PST=ASS
 「昨日の夜は家でご飯を食べたよ。」

次に処格2の =nantĩ の文例を示す。

- (35) ama=**nantĩ** shishi=nu
 あそこ=LOC2 猪=NOM2
 wu-ri. [存在の場所]
 居る.NPST
 「あそこに猪がいる。」

- (36) nashe=**nantĩ**
 名瀬=LOC2
 ka-dat=too. [動作の場所]
 食べる.PST=ASS
 「名瀬で食べたよ。」

- (37) yaa=**nantĩ**
 家=LOC2
 nihu-tut=too. [動作の場所]
 寝る.NPST=ASS
 「家で寝てるよ。」

- (38) wan=ya kun yaa=**nantĩ**
 私=TOP この 家=LOC2
 m'are-tat=too. [変化の場所]
 生まれ.PST=ASS
 「私はこの家で生まれよ。」

次に処格3の =ji の文例を示す。

- (39) uma=**ji** wu-ran=nishi
 そこ=LOC3 居る=NEG.NPST=ように
 kan kuu! [存在の場所]
 こっちへ 来る.IMP
 「そこに居ないでこっちへ来い！」

- (40) warabi-nkya=nu hama=**ji**
 童-PL=NOM2 浜=LOC3
 asu-du-n. [動作の場所]
 遊ぶ.PROG.NPST
 「子どもたちが浜で遊んでいる。」

- (41) nashe=**ji**
 名瀬=LOC3
 ka-dat=too. [動作の場所]
 食べる.PST=ASS
 「名瀬で食べたよ。」

次に処格4の =nanji の文例を示す。

- (42) wan=nu togë=ya daa=**nanji**
 1.SG=GEN1 罫=TOP どこ=LOC4
 ari=yoo? [存在の場所]
 ある=WHQ

- 「私の鎌はどこにあるか？」
- (43) an yama=**nanji**=ya shishi=nu
 あの山=LOC4=TOP 猪=NOM2
 wut=too. [存在の場所]
 居る.NPST=ASS
 「あの山には猪がいるよ。」
- (44) daiban+gī=nu nē-n
 大きい+木=GEN1 ある.NEG.NPST-AND
 doro=**nanji** ugashan utu
 ところ=LOC4 そんな 音
 shan=kana... [動作の場所]
 する.PST=CSL
 「大きな木がないところでそんな音がするから…」

3.6 具格

具格は材料, 道具, 原因, 基準を表し, =shi で標示される。以下, 文例を示す。

- (45) kun haku=ya kabi=**shi**
 この箱=TOP 紙=INST
 sikur-at-ut=too. [材料]
 作る-PASS-PROG.NPST=ASS
 「この箱は紙で作られているよ。」
- (46) yassē=ba hoochoo=**shi**
 野菜=ACC 包丁=INST
 k'ir-yut=too. [道具]
 切る-NPST=ASS
 「野菜を包丁で切るよ。」
- (47) tēnhoo=**shi** yammī=nu kī=nu
 台風=INST 庭=GEN2 木=NOM2
 k'ogē-tat=too. [原因]
 倒れる-PST=ASS
 「台風で庭の木が倒れたよ。」

- (48) wa-kyā jīchan=ya gan=**shi**
 1-PL じいさん=TOP 癌=INST
 m'or-i shat=too. [原因]
 死ぬ-INF する.PST=ASS
 「私のおじいさんはガンで亡くなったよ。」
- (49) kun hagaki=ya gomai=**shi**
 このハガキ=TOP 五枚=INST
 gohyakuen=doo. [基準]
 五百円=ASS
 「このハガキは五枚で五百円よ。」

3.7 方向格

方向格は場所を指す名詞に後接して移動の方向を表すほか, 行為を指す名詞に後接して移動の目的を表し, =chi で標示される。以下, 文例を示す。

- (50) takashi=ya n'ama hikoojoo=**chi**
 タカシ=TOP 今 飛行場=ALL
 shi-chat=too.
 来る-PST=ASS
 「タカシは今飛行場へ来たよ。」
- (51) asshe=ya ichiba=**chi**
 お母さん=TOP 市場=ALL
 koi+mun=chi i-ja.
 買う.INF+もの=ALL 行く-PST
 「お母さんは市場へ買い物へ行った。」
- (52) yassē=ya kun hukuro=**chi**
 野菜=TOP この袋=ALL
 irī-roo!
 入れる-INT
 「野菜はこの袋へ入よう！」

また, 方向格は基本的に =chi で標示されるが, 場所名詞以外の名詞につく場合, mē (「ま

え(前)]を前接させ, *më=chi* で日本語の「～ところへ」に相当する意味を表す¹⁰⁾。

(53) *y'aa më=chi tigami ukur-oo=yaa.*
2.SG まえ=ALL 手紙 送る-INT=SFP
「お前のところへ手紙を送ろうね。」

(54) *wan më=chi booru nagï-rï!*
1.SG まえ=ALL ボール 投げる-IMP
「私のところへボールを投げろ！」

(55) *takashi=ya k'wa=nu më=chi*
タカシ=TOP 子=GEN1 まえ=ALL
ijun=nishi
行く.PROG.NPST=ようだ
shut=too.
する.PROG.NPST=ASS
「タカシは子どものところへ行っているよ
うだよ。」

3.8 奪格

奪格は移動の起点, 時間の起点, 順序, 原料などを表し, *=ra/raga* で標示される。以下, 文例を示す。

(56) *oosaka=raga tokyo=garï=nu*
大阪=ABL 東京=LMT=GEN1
basuchin=ya kyasa
バス賃=TOP いくら
dar-yo=kai? [移動の起点]
COP-POL=Q
「大阪から東京までのバス賃はいくらですか?」

(57) *assha=ra natsuyasimi.* [時間の起点]
明日=ABL 夏休み
「明日から夏休み。」

(58) *nuu=ra kam-yun=yoo?* [順序]
何=ABL 食べる-NPST=WHQ
「何から食べるの?」

(59) *sëë=ya kumï=ra tsïkur-yun.* [原料]
酒=TOP 米=ABL 作る-NPST
「酒は米から作る。」

場所名詞や時間名詞などに後接する場合は基本的に *=ra/raga* で標示されるが, 人名詞に後接する場合は *më* (「まえ(前)」) をはさんで日本語の「～ところから」に相当する意味を表す。

(60) *un hanashi=ya tak=ka më=ra*
その 話=TOP 誰=GEN1 まえ=ABL
ki-chi=yoo?
聞く-PST=WHQ
「その話は誰のところから聞いたか?」

3.9 限界格

限界格は場所や時間の範囲を表し, *=garï* で標示される。以下, 文例を示す。

(61) *kun doogu yaa=garï katamï-tï*
この 道具 家=LMT 担ぐ-SEQ
ik-i=yoo. [場所の範囲]
行く-IMP=SFP
「この道具を家まで担いで行けよ。」

(62) *wa-kya k'wa=ya kyonen=garï*
1-PL 子=TOP 去年=LMT
tokyo=nan wu-tat=too. [時間の範囲]
東京=LOC1 居る-PST=ASS
「私の子どもは去年まで東京に居たよ。」

(63) *shima=nantï itsi=garï*
島=LOC2 いつ=LMT

wur-arin=yoo? [時間の範囲]
 居る-POT1.NPST=WHQ
 「島にいつまで居られるの？」

takashi=**tu** oo-tat=too.
 タカシ=COM 会う-PST=SFP
 「買い物をして帰りにタカシと会ったよ。」

- (64) ina-kan koro=**gari**=ya
 小さい-ADJ.NPST 頃=LMT=TOP
 ton=nu bentoo
 さつまいも=GEN1 弁当
 ka-du-tat=too. [時間の範囲]
 食べる-PROG=PST=ASS
 「小さい頃まではさつまいもの弁当を食べ
 ていたよ。」

- (69) tomokoo okkan=**tu**
 トモコ.TOP お母さん=COM
 ni-shu-ri=yaa.
 似る-PROG-NPST=SFP
 「トモコはお母さんと似ているね。」

3.10 共格

共格は =tu で標示され、共に動作を行う相手、
 主語名詞句の指示対象との異同を表す。また、
 名詞句を等位接続する。以下、文例を示す。

- (65) mukashi=ya takashi=**tu** sëë
 昔=TOP タカシ=COM 酒
 num-yu-tat=too.
 飲む-HAB-PST=ASS
 「昔はタカシと酒を飲んでいたよ。」

- (70) kun hossha=**tu** k'iriba
 この包丁=COM 切る-COND
 kyora-sa k'ir-arit=too.
 きれい-ADJ 切れる-POT1.NPST=ASS
 「この包丁で切れればきれいに切れるよ。」

- (66) tomoko=**tu** naokoo
 トモコ=COM ナオコ.TOP
 doshi (-kkwa)=doo.
 友-DIM=SFP
 「トモコとナオコは友達だ。」

3.11 比較格

比較格は比較の基準を表し、=nkuma で標示
 される。ホストとなる名詞の末尾が鼻音の場合
 は、n が落ちて =kuma になる。以下、文例を
 示す。

- (67) wan k'uruma=ya takashi=**tu**
 1.SG 車=TOP タカシ=COM
 onnashi k'uruma=doo.
 同じ 車=ASS
 「私の車はタカシと同じ車だ。」

- (71) terebi (=nantî) ny-un=**kuma**
 テレビ=LOC2 見る-NPST=CMPR
 kyora-sa-ri=yaa.
 きれい-ADJ-NPST=SFP
 「テレビで見るよりきれいね。」

- (68) koi+mon=shi kaer-i-n
 買う.INF+もの=する.SEQ 帰る-INF-ADV

- (72) akk-yun=**kuma** k'uruma=nantî
 歩く.NPST=CMPR 車=LOC2

no-tanŋi iccha-tat=to=yaa.
 乗る-CONC 良い.ADJ-PST=ASS=SFP
 「歩くより車に乗って良かったね。」

(73) takashi=ya hirosi=**nkuma**
 タカシ=TOP ヒロシ=CMPR
 taa-sa-ri=yaa.
 高い-ADJ-NPST=SFP
 「タカシはヒロシより（背が）高いね。」

(74) naha=cchi=ya hune=shi
 那覇=ALL=TOP 船=INST
 ik-yun=**kuma** hikooki=shi
 行く-NPST=CMPR 飛行機=INST
 ijan=ga guru-san=yoo.
 行く-PST=NOM1 速い-ADJ.NPST=SFP
 「那覇には船で行くより飛行機で行く（の）
 が速いよ。」

(75) k'inuu=ya kyu=**nkuma** kaji=n
 昨日=TOP 今日=CMPR 風=NOM2
 chuusa-ta=yoo.
 強い.ADJ-PST=SFP
 「昨日は今日より風が強かったよ。」

4. まとめと課題

本稿は、浦方言を対象に、これまで報告の少なかった格標識について、形式と意味・機能の観点から記述した。浦方言の格の形式と機能は次のようにまとめられる。

特に、浦方言の特徴として、以下3点が指摘できる。

- ・島内の他方言の先行研究では、有生性の高い目的語には無標ではなく =ba が用いられることが指摘されているが、浦方言では、命令文、意志文など、主語の人称が決まっている文タイプの場合、有生性の高い目的語であっても無標になる。

表3 浦方言の格標識

格	形式	機能
主格1	=ga/ka	動作、変化、状態の主体
主格2	=nu	動作、変化、状態の主体
属格1	=nu/n	所有、部分、関係、同格
属格2	=ka	所有、部分、関係、同格
対格	=ba	他動詞の目的語
与格	=nji	動作の受け手・対象、受動文の動作主、使役文の被使役者
処格1	=nan	存在・動作の場所
処格2	=nantŋi	存在・動作・変化の場所
処格3	=ji	存在・動作の場所
処格4	=nanji	存在・動作の場所
具格	=shi	材料、道具、原因、基準
方向格	=chi	移動の方向、移動の目的
奪格	=ra/raga	移動の起点、時間の起点、事態の順序、原料
限界格	=gari	場所や時間の範囲
共格	=tu	共に動作を行う相手、主語名詞句の指示対象との異同、道具
比較格	=kuma/nkuma	比較の基準

・方向格 =chi や、奪格 =ra/raga は基本的に場所名詞に後接することが多い。一方で人名詞に後接する場合は mē（「まえ（前）」）を前接させ、=mē=chi、=mē=ra/raga で日本語の「～ところへ」や「～ところから」に相当する意味を表す。

・共格 =tu が、道具を標示する機能を持つ。

今後の全体にわたる課題としては、どのような名詞の種類やとりたて助詞と共起するのかをさらに調査することがあげられる。個別の格助詞にわたる課題としては、処格の4形式の使いわけがあげられる。本稿の調査データは全て質問紙調査から得られたものである。質問に設定されていない意味・機能がある可能性もあるため、自然談話のデータを追加し、分析を進めることが課題である。

注

- 1) 琉球語内でも地域変種間で相互理解性を欠くことから、奄美語、沖縄語、宮古語、八重山語、与那国語の5言語（またはこれに国頭語を加えた6言語）に分類する立場が一般的である。ただし、北琉球内（奄美語、沖縄語）の下位分類は諸説あるため、本稿では便宜上、琉球語の下位区分は「〇〇方言」とよぶ。
- 2) 鹿児島県大島郡龍郷町役場調べ。
- 3) 国土地理院発行の地図データをもとに Thomas Pellard 氏（フランス国立科学研究所）が作成した地図を適宜加筆・修正して用いている。
- 4) 浦方言のデータは浦出身の80代男性1名、80代女性2名、60代男性1名、50代男性1名を調査協力者とする聞き取り調査から得られたものである。また、調査・分析に当たっては白田理人氏（琉球大学／日本学術振興会特別研究員）からの助言・協力を得ている。
- 5) 調査にあたって、以下の助成を受けている。JSPS 科研費24242014「消滅危機言語としての琉球語・八丈語の文法記述に関する基礎的研究」、JSPS 科研費24720180「琉球語奄美方言文法記述のための基礎研究」、JSPS 科研費 JP15K16754「与路島・請島を中心とした奄美大島方言の記述的研究」。
- 6) 単独では taru「誰」だが、主格1が後続すると語末が rV の環境であるので taru=ga ではなく tak=ka となる。
- 7) 「〇〇から先に…」という文脈で用いる =ba(ra) という助詞があり、これは目的語以外にも後接しうる (e.g. nan=ba(ra) saki misho-ran=na? (2.SG.HON=? 先 召し上がる-NEG.NPST=YNQ) 「あなたから先に召し上がらないか?」、y'a=nji=ba(ra) saki yaras-oo. (2.SG=DAT=? 先 遣る-INT) 「お前から先にやろう」)。=ba(ra) は ba という形でも現れるが、機能が異なる点、=bara という形でも現れうる点から対格の =ba とは別の助詞と考えている。三石 (1983) にも他動詞文のみであるが「選択の余地のあるものから一つをとり出して「まず最初にこれを～する」という場合にかぎり ba を用いる」との記述がある。
- 8) まつもと (1998) には、「空間的な二格（ありか）をあらわすのが naN(zi)格」, 「非空間的（あいて的）な二格にあたるのが Nzi 格」であるとの指摘がある。

- 9) Niinaga (2014) では =ji にあたる処格は発話時に話者が存在する場所を示す名詞句には後続しないという制限があることが指摘されているが浦方言にはこの制限はあてはまらない。(例: kuma=ji kam-o=dëë. ここ=LOC3 食べる-INT=SFP)
- 10) まつもと (1998) にも mE (「まえ「前」」) によって「空間化されたヒト名詞」は「chi 格」「ra 格」と共起し、「空間的な意味を表現しないで、あいて的な意味をになっている(えせ空間化)」する機能をもつことが指摘されている。この用法と浦方言の文法現象は連続的なものと考えられる。

参考文献

- Shigeno, Hiromi. 2010. Ura (Amami Ryukyuan). In Shimoji, Michinori, and Thomas Pellard, (eds.), *An Introduction to Ryukyuan Languages*, 15–34. Tokyo: ILCAA.
- Niinaga, Yuto. 2014. A Grammar of Yuwan, a Northern Ryukyuan Language. A thesis submitted for the degree of Doctor of Philosophy of The University of Tokyo.
- 長田須磨ほか (1980–1981) 『奄美方言分類辞典』(上下巻) 東京: 笠間書院
- 重野裕美 (2015) 『浦方言』小川晋史 (編集) 『琉球のことばの書き方—琉球諸語統一的表記法』95–115. 東京: くろしお出版.
- 重野裕美・白田理人 (2016) 「北琉球奄美方言における有生性階層—奄美大島浦方言と喜界島上嘉鉄方言・小野津方言を例に—」『広島経済大学研究論集』111–133.
- 白田理人 (2016a) 「喜界島小野津方言のモーラ表／語例と格助詞／とりたて助詞の例文」『文化庁委託事業報告書 平成27年度危機的な状況にある言語・方言のアーカイブ化を想定した実地調査研究』沖縄: 琉球大学・国際沖縄研究所
- 白田理人 (2016b) 『琉球奄美喜界島上嘉鉄方言の文法』博士論文 (京都大学)
- 寺師忠夫 (1998) 『奄美方言の研究』私家版
- 野原三義 (1989) 「瀬戸内町方言助詞の研究」『鹿児島県大島郡瀬戸内町調査報告書 (4)—地域研究シリーズ No. 13—』沖縄国際大学南島文化研究所
- まつもと・ひろたけ (1998) 「格のカテゴリーの内部構造—奄美方言の〈空間格〉をめぐって—」『国文学解釈と鑑賞』63(1). 82–93. 東京: 至文堂
- 三石泰子 (1983) 「奄美大島瀬戸内町芝方言の格助詞」『熊本短大論集』34(1) 熊本短期大学

補助資料

表4 浦方言のグロス一覧

グロス	英訳	意味	グロス	英訳	意味
1	first person	一人称	INT	intentional	意志
2	second person	二人称	INTJ	interjection	感動詞
ABL	ablative	奪格	LMT	limitative	限界格
ACC	accusative	対格	LNK	linker	連結辞
ADD	additive	添加	LOC	locative	処格
ADJ	adjectivizer	形容詞化	NEG	negative	否定
ADV	adverbializer	副詞化	NOM	nominative	主格
ALL	allative	方向格	NPST	non-past	非過去
ASS	assertive	断定	PL	plural	複数
BEN	benefactive	受益	PASS	passive	受身
CAUS	causative	使役	POL	polite	丁寧
CMPR	comparative	比較格	POT	potential	可能
COM	comitative	共格	PROG	progressive	進行
CONC	concessive	譲歩	PST	past	過去
COND	conditional	条件	Q	question	疑問
COP	copula	コピュラ	QUOT	quotative	引用
CSL	causal	理由	SEQ	sequential	継起
DAT	dative	与格	SFP	sentence final particle	文末助詞
DES	desiderative	願望	SG	singular	単数
DIM	diminutive	指小辞	TOP	topic	主題
DU	dual	双数	WHQ	wh question	疑問詞疑問
FOC	focus	焦点	YNQ	yes-no question	真偽疑問
GEN	genitive	属格	-		接辞境界
HAB	habitual	習慣	=		接語境界
IMP	imperative	命令	+		複合語境界
INCL	inclusive	包括	~		重複境界
INF	infinitive	不定形	<.>		借用語
INST	instrumental	具格			